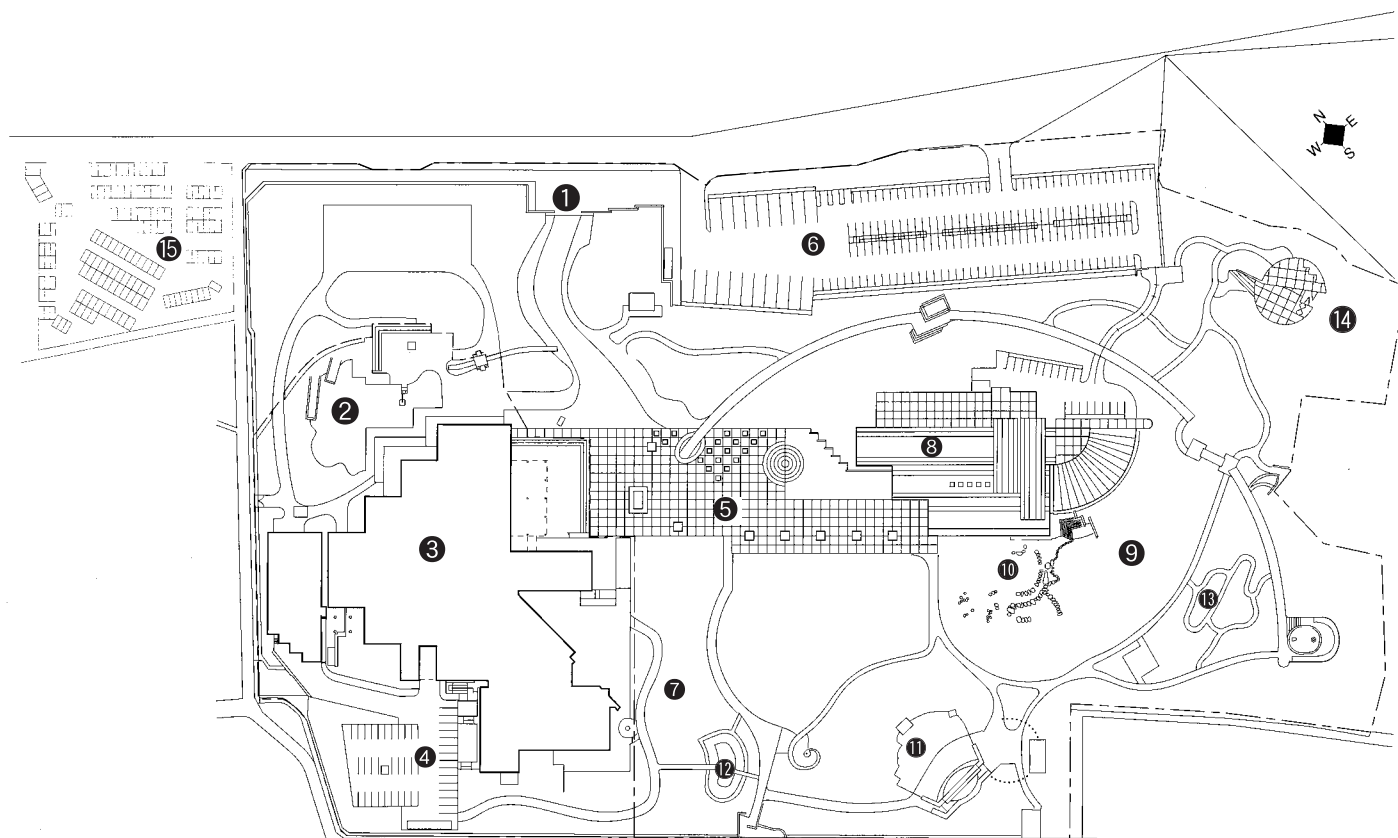


2. 施設の概要

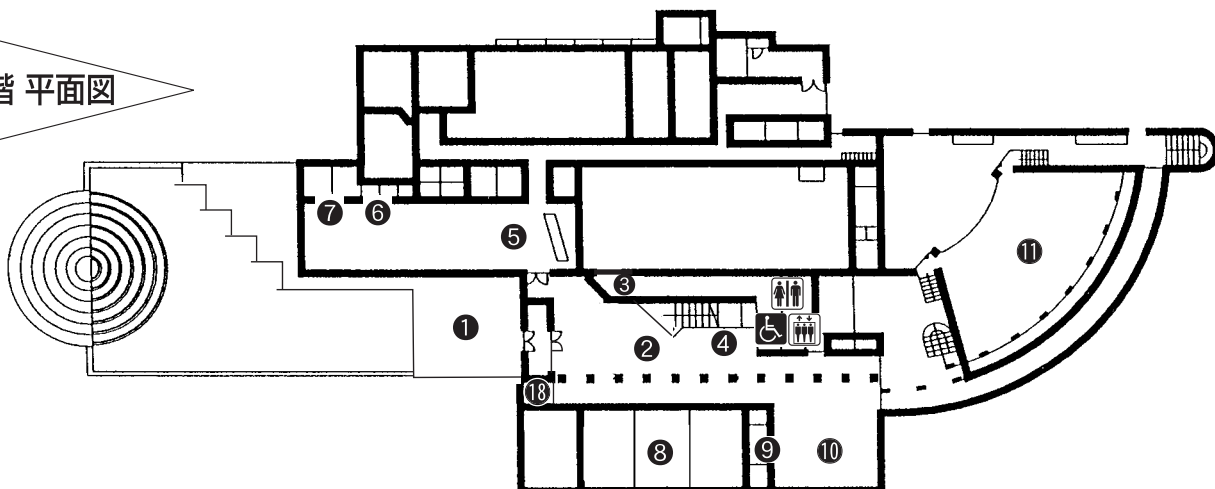
(1)「芸術の森公園」略図



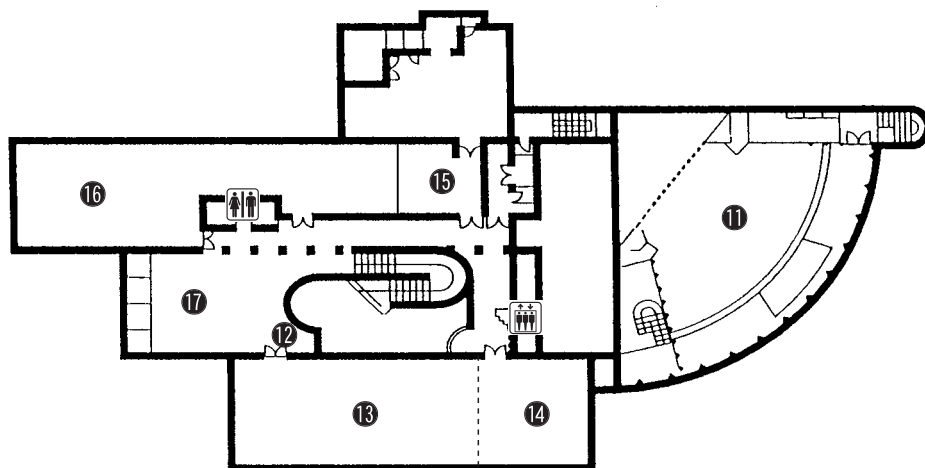
- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| ①正門 | Main Gate |
| ②北池 | North Pond |
| ③美術館 | Museum of Art |
| ④第二駐車場 | The Second Parking Lot |
| ⑤さんさん広場 | Sansanhiroba |
| ⑥第一駐車場 | The First Parking Lot |
| ⑦プロムナード | Promenade |
| ⑧文学館 | Museum of Literature |
| ⑨南池（ふみの池） | South Pond named “Fumi no ike” |
| ⑩日本庭園 | Japanese Garden |
| ⑪屋外研修施設（野外劇場） | Open-air Theater |
| ⑫バラ園 | Rose Garden |
| ⑬ボタン園 | Peony Garden |
| ⑭茶室（素心菴） | Tea Ceremony Arbor named “Soshinan” |
| ⑮第三駐車場 | The third Parking Lot |

(2)「文学館」平面図

1階 平面図



2階 平面図



- ①正面入口
- ②エントランスホール
- ③総合案内
チケット売場
施設利用受付
- ④ミュージアム・ショップ
- ⑤閲覧室
- ⑥個人研究室
- ⑦共同研究室
- ⑧研修室

- ⑨喫茶室
- ⑩ロビー
- ⑪講 堂
- ⑫常設展受付
- ⑬常設展示室（展示室A）
- ⑭飯田蛇笏・龍太記念室（展示室A）
- ⑮常設展示室（展示室B）
- ⑯企画展示室（展示室C）
- ⑰2階ロビー
- ⑱ロッカー

-  エレベーター
-  トイレ
-  身障者用トイレ

- 構 造 鉄筋コンクリート造り
地下1階、地上2階、一部3階
- 規 模 建築面積 3,258㎡
延床面積 6,168㎡

- 工 期 昭和62年11月～平成元年3月
- 建設事業費 28億4,626万9千円

(3) 建物用途別面積表

室名	室数	階層	延面積㎡	室名	室数	階層	延面積㎡
管理部門			1,954.50	講堂客席	1	H	483.92
館長室	1	1	38.57	講堂舞台	1	H	117.04
応接室	1	1	33.60	講堂控室	2	H	27.68
事務室	2	1	223.74	講堂コントロール室	1	H	26.90
会議室	1	1	42.43	その他	—	—	79.36
印刷室	1	1	14.40	資料保存部門			661.32
写真・暗室	3	2	41.61	収蔵庫	1	—	235.14
くん蒸室	1	1	16.64	収蔵庫前室	1	—	13.54
湯沸室	1	1	6.00	書庫	1	—	412.64
控え室	1	1	11.08	共同部門			1,160.77
整理室	1	1	97.54	エントランスホール	—	—	266.90
荷解室	1	1	48.26	ロビー	—	—	397.02
警備員室	3	1	18.09	講堂ロビー、ホワイエ	—	—	320.25
監視員室	1	2	11.85	喫茶厨房等	2	1	44.20
清掃員室	1	B	4.50	給湯室	1	1	3.60
清掃用具室	1	1	2.60	ロッカー室	1	1	8.55
倉庫	3	H	17.14	協力員控室等	2	1	24.40
監視員室	1	R	15.72	客用便所	5	1	71.45
機械室	2	B R	553.96	客用便所	3	2	24.00
電気室	1	R	86.68	ミュージアム・ショップ	—	1	24.00
ハロンボンベ庫	1	R	21.00				
エレベーター機械室	2	1	14.52				
その他	—	—	634.57				
展示部門			1,172.43				
展示室(北)	1	2	520.33				
展示室(南)	1	2	478.66				
展示準備室	1	2	173.44	※凡例 H：講堂 B：地階 R：屋階			
閲覧部門			293.61	各階別			計
閲覧室	1	1	246.55	3階			556.76
ビデオブース	2	1	12.16	2階			2,290.24
個人研究室	2	1	7.36	1階			3,098.20
共同研究室	2	1	27.54	地階			222.99
教育部門			925.56				
研修室	1	1	159.03				
備品庫	1	1	31.63	合計			6,168.19

3. 事業概要

(1) 常設展

常設展示室（展示室A・B）は全体で5室の構成となっている。第1室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第2室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第3室は芥川龍之介コーナー、第4室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室として年4回春夏秋冬に一部の資料の入れ替えを行っている。第5室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年2回入れ替えて紹介している。

以下の資料一覧には、令和5年5月1日（月）～令和6年3月3日（日）の間、常設展に出品した資料すべて掲載した（館内設備工事のため令和4年12月1日～令和5年4月30日まで臨時休館）。

第1室

期間限定公開

◆ 春・夏の常設展 5/1（月）～8/27（日）

作家の肖像Ⅰ 太宰治

太宰治写真パネル 1946（昭和21）年 撮影 林忠彦

「小説新潮」第2巻第1号 1948（昭和23）年1月

太宰治書き込み『パンドラの匣』1946（昭和21）年6月 河北新報社

太宰治「あとがき」原稿

太宰治 岩月英男宛はがき 1946（昭和21）年8月23日、1947（昭和22）年5月1日

◆ 秋の常設展 8/29（火）～12/3（日）

昇仙峡名勝指定100周年記念

与謝野晶子「自在観わが倚る岩をおさへたり若き純次も力者の如く」軸装

写真パネル 昇仙峡にて 1933（昭和8）年10月 与謝野寛、与謝野晶子

写真パネル 昇仙峡にて 1933（昭和8）年10月 井上苔溪、茂手木みさを、中込純次、中込旻、与謝野寛、与謝野晶子、渋谷俊

与謝野寛「路高し雑木をへだて下に見ゆ御嶽の溪の羅漢寺の橋」短冊

与謝野寛「戸あくれば溪間の秋の星冴えて飛ぶ雲早し金峯おろしに」色紙

「冬柏」第4巻第12号 1933（昭和8）年11月

佐佐木信綱『おもひ草』1903（明治36）年10月 博文館

神奈桃村日記 1906（明治39）年

◆ 冬の常設展 12/5（火）～3/3（日）

作家の肖像Ⅱ 芥川龍之介

写真パネル 第一高等学校時代の芥川龍之介と井川恭（のち恒藤恭）

芥川龍之介の描いた戯画「一高へ二人り三中から這入」

芥川龍之介「菩提樹一三年の回顧」

芥川龍之介「第一高等学校在学中」未定稿

富士山点描（世界文化遺産登録10周年記念「富士山の日（2月23日）」関連展示）

遅塚麗水「不二の高根」原稿

新田次郎「富士と私」原稿

太宰治文学碑のための切貼原稿「富士には月見草がよく似合ふ」〈複製〉

武田泰淳「富士」第9回原稿〈複製〉

草野心平「富士山六題」折帖

芥川龍之介「富士山」原稿

太宰治文学碑のための切貼原稿「富士には月見草がよく似合ふ」

飯田蛇笏「富嶽登攀」原稿、俳句草稿

武田泰淳「富士」第9回原稿

山梨の文学風土

◆ 甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

◆ 甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊

荻生徂徠『徂徠集』巻之十五 元文元年序文「峡中紀行」収録

賀茂季鷹『富士日記』文政6年刊

◆ 甲府学問所 徽典館

乙骨耐軒「徽典館学頭勤務割」

甲府勤番支配宛 徽典館学頭任命通知書

乙骨耐軒「維新亭齋詩初稿」

乙骨耐軒「甲役途中詩」

乙骨耐軒「維心亭齋詩初稿付外集」

◆ 国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明3年9月刊

本居宣長点 辻守瓶「春十首」和歌

本居宣長点 辻守瓶「思往事」一枚物

本居宣長点 辻守瓶「万葉の集見ずして歌」一枚物

万葉和歌集 巻第二十

山梨出身・ゆかりの作家と作品

樋口一葉（ひぐち いちよう）

写真パネル 次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎

写真パネル 母多喜・奈津（7歳頃）・姉ふじ・妹くに（本郷6丁目5番屋敷時代）

写真パネル 萩の舎集合写真

写真パネル 半井桃水

写真パネル 竹内桂舟 画「うもれ木」第7回挿絵

写真パネル 文学界同人

写真パネル 一葉女史の碑建碑の日 1922（大正11）年10月15日

樋口一葉「雪の日」未定稿 軸装（「大つごもり」草稿）

馬場孤蝶「一葉の住みし町なり夕時雨」軸装

下村為山 画 樋口一葉肖像（複製）

新五千円札（A000006A番）

樋口虎之助作 薩摩焼絵付皿（東海道五十三次）

吉川学校下等小学第八級卒業証書

樋口一葉筆 手習い帖「竹取物語」

樋口一葉筆 手習い手本「古今和歌集仮名序」

樋口一葉 小短冊「庭新樹 ふく風の」「庭新樹 鳥の音も」「夜郭公 ほとゝぎす」「山家郭公 うちあほく」

樋口一葉 古屋家宛書簡 1893（明治26）年5月7日

樋口一葉 斎藤緑雨宛書簡 1896（明治29）年1月9日（複製）

樋口一葉 馬場孤蝶宛書簡 1895（明治28）年9月17日

樋口一葉 半井桃水宛書簡 1892（明治25）年秋

樋口一葉「闇桜」未定稿（複製）原本 台東区立一葉記念館

樋口一葉「たけくらべ」関連未定稿

木村莊八「たけくらべ絵巻」画稿控（筆屋）

幸田露伴「真筆版『たけくらべ』序文」原稿 1918（大正7）年10月

樋口一葉「にぎりえ」関連未定稿

樋口一葉「ゆく雲」未定稿（複製）

筆立て

こうがい・根掛け・筋立
馬場孤蝶編『一葉全集』前・後
井上ひさし『頭痛 肩こり 樋口一葉』1984（昭和59）年4月 集英社
こまつ座第41回公演「頭痛肩こり樋口一葉」チラシ
「t h e 座」通巻18号 1991年、通巻27号 1994年、通巻33号 1996年

第 2 室

井伏鱒二（いぶせ ますじ）

井伏鱒二「はるのねざめのうつゝできけばとりのなくねでめがさめました」軸装
井伏鱒二「はなにあらしのたとへのあるぞ さよならだけが人生だ 花発多風雨 人生是別離」軸装
井伏鱒二「あの山は誰の山だどつしりとしたあの山ハ」軸装
井伏鱒二「けふは仲秋明月」枕屏風
井伏鱒二「さびしい庭にまつかさおちてとてもお前はねにくうござろ」軸装
井伏鱒二「わたしのこゝろの大空に舞ひ狂ふはるかなる紙風ひとつ」色紙
井伏鱒二「あの山を見よあれは誰の山だどつしりとしたあの山を見よ」色紙
井伏鱒二「山みちのかたはらに水たまりあり手洗ふと立てば涙水に落つ」色紙
井伏鱒二「旧・笛吹川の址地」原稿〈複製〉
井伏鱒二「波高島」原稿〈複製〉
井伏鱒二「怖くて好きな富士山」原稿
井伏鱒二「甲斐の黒駒」草稿
井伏鱒二「青木南八」原稿〈複製〉
井伏鱒二「曾良の随行記」原稿
「文藝都市」1929（昭和4）年5月
「新潮」第81巻第1号 1984（昭和59）年1月
井伏鱒二 画 絵付け皿
井伏鱒二『厄除け詩集』1937（昭和12）年5月 野田書房
井伏鱒二『黒い雨』1966（昭和41）年10月 新潮社
井伏鱒二『ドリトル先生アフリカ行』1941（昭和16）年1月 白林少年館出版部
井伏鱒二『ドリトル先生アフリカ行』1941（昭和16）年12月 フタバ書院
井伏鱒二『ドリトル先生の動物園』1979（昭和55）年2月 岩波書店 1991（平成3）年2月19刷
井伏鱒二『ドリトル先生航海記』1952（昭和27）年2月 講談社
白根美代子 画『トートーという犬』挿絵原画
写真パネル 太宰治の御坂峠の文学碑を見にいく井伏

太宰 治（だざい おさむ）

写真パネル 甲府市水門町（現・朝日1丁目）の石原家玄関横で 1939（昭和14）年元旦
写真パネル 三鷹の古本屋にて 1948（昭和23）年3月 撮影 田村茂
写真パネル 陸橋（三鷹電車庫跨線橋）にて 1948（昭和23）年3月 撮影 田村茂
太宰治御坂峠文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」拓本軸装
「鶴」第1輯 1934（昭和9）年4月
太宰治 浅見淵宛葉書 1940（昭和15）年6月21日〈複製〉
太宰治「陰火」原稿〈複製〉
太宰治『晩年』1936（昭和11）年6月 砂子屋書房
太宰治 高田英之助宛書簡 1939（昭和14）年4月21日消印
太宰治 高田英之助宛書簡 1939（昭和14）年1月17日〈複製〉
太宰治『右大臣実朝』1943（昭和18）年9月 錦城出版社
太宰治『富嶽百景』1943（昭和18）年1月 新潮社
太宰治「ヴィヨンの妻」原稿〈複製〉
太宰治『ヴィヨンの妻』1947（昭和22）年8月 筑摩書房
太宰治「斜陽」草稿〈複製〉
太宰治「人間失格」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵

小田嶽夫「太宰治君の『奉仕』」原稿
太宰治文学碑のための切貼原稿「富士には月見草がよく似合ふ」〈複製〉
「鳩のごとく蛇のごとく 斜陽」パンフレット

檀 一雄（だん かずお）

檀一雄「太郎生後九十四日」額装〈複製〉
檀一雄「潮騒や磯の小貝の狂ふ迄」色紙
檀一雄「嗚呼何と云う充満した光輝でせう」一枚物
檀一雄「魂きはる命の限り見てしかな青海原の断崖に坐す」一枚物
檀一雄「此処ニ浮足立つた男が一人居て」色紙
檀一雄「世界のもの憂き町を歩きつめたる悲しき男有り その男愛を語らず その男ツケを払はず 挙句の果の昇天を信ずと謂 合掌」一枚物
檀一雄「旅立ち」原稿〈複製〉
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年4月 作品社
檀一雄「微笑」（『火宅の人』第1章）原稿〈複製〉
檀一雄『火宅の人』特装本 1979（昭和54）年6月 新潮社
映画「火宅の人」ポスター 1986（昭和61）年 東映
写真パネル 能古島の草庵「月壺洞」にて 1975（昭和50）年
檀一雄「萬葉びとの声」原稿
檀一雄「逗留客」原稿
檀一雄「佐藤春夫先生の豊饒」原稿
檀一雄「師の墓地」原稿
檀一雄『長恨歌』1951（昭和26）年3月 文藝春秋社
檀一雄『真説石川五右衛門』1951（昭和26）年9月 新潮社
檀一雄『檀流クッキング』1970（昭和45）年7月 サンケイ新聞社

山本周五郎（やまもと しゅうごろう）

写真パネル 映画館にて 撮影 秋山青磁
写真パネル 散歩する周五郎 撮影 秋山青磁
写真パネル 右から周五郎、高森栄次、山手樹一郎 1935（昭和10）年頃 撮影 秋山青磁
村上幽鬼「染血桜田門外」草稿〈複製〉
清水紅情「寂しさ」草稿〈複製〉
島津恭二「静春想」草稿〈複製〉
清水清「或る男女の話」草稿〈複製〉
和泉比呂詩「五月の野辺」草稿〈複製〉
山本周五郎「季節のない街」草稿
山本周五郎「氷の下の子」原稿
山本周五郎「青べか物語」原稿〈複製〉原本 原本 神奈川近代文学館蔵
山本周五郎『山彦乙女』1952（昭和27）年2月 朝日新聞社
山本周五郎『樅ノ木は残った』1969（昭和44）年8月 講談社
山本周五郎『季節のない街』1962（昭和37）年12月 文藝春秋新社
山本周五郎『五辨の椿』1959（昭和34）年9月20日 講談社
風間完「樅ノ木は残った」原画
山本周五郎『赤ひげ診療譚』1959（昭和34）年2月 文藝春秋新社
「新少年」別冊附録『シャーロック・ホームズ』1935年12月
映画「赤ひげ」ポスター 1965（昭和40）年 東宝
映画「赤ひげ」パンフレット 1965（昭和40）年 東宝
映画「赤ひげ」台本 1963（昭和38）年 東宝
映画「五辨の椿」ポスター 1964（昭和39）年11月 松竹
映画「どですかでん」ポスター 1970（昭和45）年 東宝
映画「どですかでん」パンフレット 1970（昭和45）年 東宝
映画「海は見ていた」ポスター 2002（平成14）年 日活
映画「さぶ」ポスター 1964（昭和39）年 日活

深沢七郎（ふかさわ しちろう）

写真パネル ギターリストの頃
写真パネル 夢屋にて 撮影 佐藤真樹
写真パネル 笛吹市石和町の甲運亭にて 1976（昭和51）年4月6日
横尾忠則 画 夢屋ポスター
深沢七郎「櫛山節考」原稿〈複製〉
深沢七郎「笛吹川」草稿〈複製〉
深沢七郎「言わなければよかったのに日記」原稿〈複製〉
深沢七郎「変化草」原稿
深沢七郎『櫛山節考』1957（昭和32）年2月 中央公論社
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年4月 中央公論社
谷内六郎 画 深沢七郎『笛吹川』（1958年4月 中央公論社）装幀原画
深沢七郎『言わなければよかったのに日記』1968（昭和43）年3月
映画「櫛山節考」ポスター 1958（昭和33）年 松竹
映画「笛吹川」ポスター 1960（昭和35）年 松竹
映画「笛吹川」パンフレット 1960（昭和35）年 松竹
映画「笛吹川」台本 1960（昭和35）年 松竹
深沢七郎 河村学而宛書簡 年月日不明
今川焼屋「夢屋」包装紙 デザイン 赤瀬川源平

山崎方代（やまざき ほうだい）

山崎方代「折から甲斐路の春は深く天まで桃の花盛りなり」額装
山崎方代「亡き母のふるさとに来て腹赤き蟹の子供を吹き散すなり」軸装
山崎方代「水晶の青い峠の頂きになんじゃもんぢの木が立ってゐる」軸装
山崎方代「一枚の赤き木の葉がとこしえに木曽谷深く舞ってゆく」軸装
山崎方代「ほんとうの酒がこの世にありし時父もよいたり吾もよいにき」軸装
山崎方代「方代の一日が暮れて朝が来て又ふあふあと日は闇けてゆく」軸装
山崎方代「名物の赤城下しをききながらこんにかく作りの講習を受く」軸装
山崎方代「広辞苑辞書を枕にかけめぐる半偈の夢を見ることにする」短冊
山崎方代「恋人はいずこにおわすとうとうと樹木は春の水あげてをる」短冊
山崎方代「寂しくて一人笑えば茶ぶ台の上の土瓶が笑い出したり」短冊
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」色紙
山崎方代「柿の実が梢に赤いなれど私は役たたずなり」一枚物
山崎方代「茶ぶ台の上の土瓶に心中をうちあけてより楽になりたり」色紙
山崎方代「ほんとうに泣けば涙が出でて来る雪割草は白い花なり」色紙
山崎方代「フランソワ・ヴィヨン詩鈔をふところに一ツ木町を追われゆくなり」短冊
山崎方代「なんじゃもんじゃの木」草稿
山崎方代「わが歌の秘密」原稿〈複製〉
山崎方代「土の仏」原稿
愛用品 眼鏡、万年筆、ルーペ、『広辞苑』
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月 山上社
山崎方代『右左口』1973（昭和48）年12月 短歌新聞社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月 短歌新聞社
山崎方代『青じその花』1981（昭和56）年12月 かまくら春秋社
山崎方代『迦葉』1985（昭和60）年11月 不識書院
写真パネル 方代艸庵にて 撮影 湯川晃敏

中村星湖（なかむら せいこ）

中村星湖「少年行」原稿〈複製〉
「早稲田文学」第17号 1907（明治40）年5月
中村星湖『ボヴリイ夫人』1916（大正5）年6月 早稲田大学出版部
中村星湖『巴里の風俗と美術』草稿

中村星湖「あめつちを開きし物を生み成せし神業を嗣く人わさたふと」短冊
中村星湖「島村抱月の話」原稿
中村星湖「また逢はむと云ひて別れし丘の上にわれは来たれど落葉のみして」短冊
中村星湖「幸ひはこゝにこそ住め朝にたち夕かゝよふ富士やまの裾 昭和三十三年初秋」色紙
中村星湖「富士百景」草稿

前田 晁（まえだ あきら）

田山花袋筆「文章世界」創刊号立案〈複製〉
前田晁『明治大正の文学人』1942（昭和17）4月 砂子屋書房
小出檐重 画「文章世界」表紙原画〈複製〉
島崎藤村 前田晁宛葉書 1913（大正2）年9月3日
前田晁「クオレ」についての講演原稿
国木田独歩 前田木城宛書簡 年月不明15日
前田晁「『文章世界』と私」草稿
三木露風 前田木城宛書簡 1909（明治42）年2月4日

三井甲之（みつい こうし）

「アカネ」創刊号 表紙原稿 1908（明治41）年2月〈複製〉
「アカネ」創刊号 1908（明治41）年2月
愛用品 筆立て・眼鏡
三井甲之「うつりやすきこのよのたのしみうたにうたひとはにかたみとせむはたのしき」短冊
三井甲之「生命」草稿
三井甲之「友に 海の波よせてはかへすと思ふよりもよせてはかへすうねりを見たまへ」短冊
三井甲之『短歌概論』1930（昭和5）年10月 しきしまのみち会
三井甲之「ふる雪にうつみて見えぬ伏屋にも隣にかよふ道はありけり」短冊
伊藤左千夫 三井甲之宛書簡 1905（明治38）年（推定）11月21日
三井甲之「古事記論」草稿
三井甲之「自然ノ威力ニ死スルワレモマタ自然ナリ」短冊

中里介山（なかざと かいざん）と山梨

中里介山「大菩薩峠 流転の巻」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
中里介山『大菩薩峠』1918（大正7）年11月・1919（大正8）年4 玉流堂
『石井鶴三挿絵集』第1巻 1934（昭和9）年11月 光大社
安岡章太郎「果てもない道中記」原稿（2）
安岡章太郎「果てもない道中記」原稿（10）
「隣人之友」通巻84号 1933（昭和8）年12月
「大菩薩峠」完結編台本
中里介山 後閑林平宛葉書 1922（大正11）年9月3日
「大菩薩峠『白骨の巻』」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
『大菩薩峠』1919（大正8）年4月 玉流堂

伊藤左千夫（いとう さちお）と山梨の歌人たち

諸家寄せ書き
伊藤左千夫「よもつくにの道の長手をよろつたひかへりみすらむ旅の子ゆへに」短冊
神奈桃村「岩窟に安置されたる百体の石の看音見てまわりけり」短冊
神奈桃村「神奈桃村日記」1916（大正5）年10月15日～1922（大正11）年2月28日
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
岡千里「糸さくら風にちりつゝくれなるのつばきはいたみたまたまにおつ」短冊
岡千里「見てあれば地上にひとと落椿花われわれに玉の緒と絶ゆ」短冊
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年2月14日消印
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1912（明治45）年2月19日消印
神奈桃村 新免一五坊宛葉書 年月日不明
日原無限 歌稿

伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年9月22日
伊藤左千夫 岡千里宛書簡 1911（明治44）年12月11日
神奈桃村「紫芋をかこひ穴よりとりいだし芽あるとなしを選びわけけるかも」短冊
岡千里「吾児等のあさいはさめず紅のはなあたらしき落つばきかも」短冊
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年1月12日
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みなのかよきにきほひ咲ける花かも」短冊
岡千里「落椿みだれて赤き花屑に日輪黒くはめてある如し」短冊
神奈桃村 岡千里宛葉書 年不明3月10日
神奈桃村「岩窟のおくまるところ真かゝやく黄金の像一寸八分」短冊
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
「馬酔木」第3巻第2号 1906（明治39）年2月

秋山秋紅蓼（あきやま しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼「不定形俳句に於ける内容律の究明と其形體について」原稿
秋山秋紅蓼「青梅ころの峽に入り水おとに侍す」色紙
秋山秋紅蓼 スケッチブック 昭和4年4月画「馬酔木」ほか。
秋山秋紅蓼「蓮」句稿
秋山秋紅蓼 素描「朝顔」
秋山秋紅蓼「ぶどうの房」句稿
秋山秋紅蓼「葡萄」スケッチ 1956（昭和31）年10月15日
秋山秋紅蓼「富士山」句稿
秋山秋紅蓼 素描「獅子」
秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年1月 沙羅書店

田中冬二（たなか ふゆじ）と山梨

田中冬二『青い夜道』1929（昭和4）年12月 第一書房
田中冬二 深沢正志宛書簡 1964（昭和39）年4月9日〈複製〉
田中冬二「山の祭」直筆一冊本 1956（昭和31）年12月〈複製〉
田中冬二「晩春の夜に」草稿
田中冬二「手習本に春雨けむる山里と」色紙
田中冬二「若葉雨」自筆句集
田中冬二「麦藁帽子の感覚—四季の思い出—」草稿
田中冬二「憂愁をのこして夏の日は過ぎたが」草稿
田中冬二「初富士」草稿

木々高太郎（きぎ たかたろう）

木々高太郎『人生の阿呆』1936（昭和11）年7月 版画荘
「シュピオ」第3巻第4号 1937（昭和12）年5月
林麟『頭の上くなる本』（カッパ・ブックス）1960（昭和35）年10月25日9版 光文社
木々高太郎「少年時代によんだ本」草稿
木々高太郎「美の悲劇」原稿〈複製〉
木々高太郎「夜をこめて囁く如し哲学を恋をねたみをわが耳鳴りは」色紙
木々高太郎「ねむり妻」原稿
木々高太郎「書く」ということ 原稿

小尾十三（おび じゅうぞう）

「文藝春秋」第22巻第12号 1944（昭和19）年12月
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年2月 満洲文藝春秋社〈復刻〉
芥川賞記念品の腕時計
小尾十三「しつけ糸」原稿
川端康成 小尾十三宛書簡 1951（昭和26）年5月9日
小尾十三「からすの親子」草稿
小尾十三 俳句・短歌草稿
小尾十三「燈火」草稿

村岡花子（むらおか はなこ）

村岡花子「赤毛のアン」第3章翻訳原稿〈複製〉
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年5月 三笠書房
モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』〈複製〉
村岡花子『心の饗宴』1941（昭和16）年4月 時代社
村岡花子「一ばん悲しいこと」原稿
村岡花子「故阿部眞之助さんのこと」原稿
村岡花子 前田晁宛葉書 1926（大正15）年10月22日
村岡花子「クリスマスのおもいで」原稿

徳永寿美子（とくなが すみこ）

徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年2月 アルス〈複製〉
「母」第6年第8号〈複製〉
徳永寿美子「小公子」原稿〈複製〉
徳永寿美子『小公子』1948（昭和23）年5月 広島図書
徳永寿美子『小公子』1951（昭和26）年4月 小峰書店
徳永寿美子「シギトハマグリ」草稿
「幼年倶楽部」第11巻第6号 1936（昭和11）年6月
徳永寿美子「ニルスの旅」翻訳草稿
徳永寿美子「フランダースの犬」草稿
徳永寿美子「甲斐のくに七里が岩のいわつゝじあやに咲きけんう月のまひる」短冊
徳永寿美子「富士と甲州」原稿

八木義徳（やぎ よしのり）と山梨

八木義徳『風祭』1976（昭和51）年8月 河出書房新社
八木義徳『母子鎮魂』1948（昭和23）年3月 世界社
『八木義徳全集』第3巻 1990（平成2）年5月 福武書店 妻正子に宛てた献辞入
八木義徳「系図」原稿
八木義徳「文章は血と土とそして海の風から生れる」色紙
八木義徳「美しき晩年のために」原稿
八木義徳「胡桃」原稿
八木義徳「灰色の海に」色紙
八木義徳「私と甲州」原稿

武田泰淳（たけだ たいじゅん）と山梨

「海」第1巻第5号 1969（昭和44）年10月
『富士』1971（昭和46）年11月 中央公論社
武田泰淳『富士』特製愛蔵本 1972（昭和47）年10月 中央公論社
司修『富士』挿絵原画エッチング
武田泰淳「深澤七郎『庶民烈伝』」原稿
武田泰淳 檀一雄宛葉書 1972（昭和47）年6月29日
映画「ひかりごけ」パンフレット 1992（平成4）年
「魯迅とロマンティシズム」原稿
武田百合子「富士日記序文」原稿
武田百合子『富士日記』上・下 1977（昭和52）年10月・12月 中央公論社

李良枝（イ・ヤンジ）

愛用の筆筒・文具
ソウル大学卒業証書 1988（昭和63）年2月26日
李良枝「由熙」草稿
李良枝『由熙』1989（平成元）年2月 講談社
第100回芥川賞正賞懐中時計
李良枝「かずきめ」草稿